

知教労と半田市教育委員会との話し合い結果

半田市教育長 鈴木 慶光 教育部長 岩橋 平武 学校教育課長 森田 知幸 主任指導主事 鈴木 康弘
副委員長 市野 司 書記長 岡崎 良久 副委員長 岡田 康

1 新型コロナウイルスへの対応を考えてください。

- (知教労) まず、昨年度の話し合いのときの回答通り、各学校に留守番電話が導入されたことに感謝します。
- (知教労) コロナの具体的な対策について、学校現場で一旦陽性者が出たら毎日何百人の人間が集まっているところだから大変なことになる。少人数学級を進めていってほしい。
- (教委) 少人数学級はコロナへの対応にかかわらず進めていきたい。市長会、教育長会でも声をあげるよう働きかけたい。
- (知教労) PCR検査が必要な場合、すぐに受けられるような体制がいるのではないか。消毒用のアルコールや非接触型体温計、マスクなど優先的に整えてほしい。
- (教委) PCR検査の希望者への対応は考えていない。今年度はコロナへの対応として、臨時的に生活支援員や消毒作業のためのスクールサポートスタッフを配置して対応した。非接触型体温計は、小学校で5～6台、中学校で6台配備している。アルコールは各学校の裁量で購入できるよう費用を配分済み。

2 労働安全衛生法にもとづき、教育委員会として適正なマネジメントを進めてください。

- (知教労) 給特法の改定が行われ、ガイドラインが指針に格上げされたことで、月の超過勤務が45時間以内、年間360時間に制限された。
- (教委) 給特法の改正で、県教委の規則が令和3年4月1日から施行されることを認識している。校長会でも定時退校日の設定なども含め呼びかけていく。
- (知教労) 情報公開で得られた6月の調査では、昨年と比べ超過勤務の割合が減っているが、依然として80時間、100時間超の教員もまだ見られる。
- (教委) 出退勤時刻は毎月報告を受けている。校長会や教頭会でも適切な指導をするように話をしている。
- (知教労) 休憩時間が取れない現状なのに、半田市は、在校時間から8時間30分を引いている。休憩時間が取れなかった場合引けるようにはなっているが、6月分では1人も引いていなかった。
- (教委) 休憩時間は取れていると認識している。
- (知教労) 実際には取れない状況だ。昨年は、(それを踏まえて)4月に出勤簿の記入について説明していきと言ったはずだ。集計として1カ月に16時間程度違ってくる。
- (教委) 把握はきちんとしていく。(超過勤務が)45時間以内に近づけるようにしたい。
- (知教労) 出勤簿を公文書として管理・保存すべきだ。
- (教委) そうしている。
- (知教労) 労安法に関して、50人以上の職場2校で労働衛生委員会が開かれていた。今年はどうなったのか。昨年、衛生推進者が校長となっているということだったが、改善されたのか。
- (教委) 50人以上の半田中と乙川中は開いている。あとの学校は市の委員会に、学校教育課長が安全管理者、推進者として校長と園長に参加してもらっている。
- (知教労) 昨年も言ったが、管理職が推進者では、ブレーキとアクセルが一緒に意味がない。
- (教委) 今のところはこのシステムだ。
- (知教労) 校長(推進者)はきちんとした研修を受けているのか。
- (教委) 法的知識は独学で学んでいる。
- (知教労) 何でも校長頼みではなく、法に基づいてきちんとしてもらいたい。最近是非正規職員も多く、その人たちも含めカウントすることになっている。他の学校でも(50人以上の職場が)あるのではないか。
- (知教労) 超過労働時間が80時間を超えた者の産業医への受診希望はあったか。
- (教委) 今のところはない。
- (知教労) 超過時間が200時間近い人もいる。産業医に受診させるか、超過勤務をやめさせるか指導が必要だ。
- (教委) ご意見として伺っておく。
- (知教労) 文科省が導入を目指している1年ごとの変形労働制だが。
- (教委) 現時点では考えていない。県や周囲の市町の動向も見極めたい。

3 学校行事や事務などが職員の負担にならず、教員の自主的な研修が保障できるようにしてください。

(知教労) 今年、「学校巡回」という形で、指導案を書かなかったが、この形で続けるつもりはないか。

(教委) 知教協事業としての訪問がなかった。学校の様子が知りたいということで巡回という形で行った。

(知教労) 指導案をA4にしていく考えは。また、学校訪問の半日日程化は。

(教委) 授業力の向上には年に一度くらい単元を見通して指導案を書き、授業を見てもらうことも大切だ。

(知教労) 昨年度も(半田市内で)2校A4の1枚にした学校もある。その動きを進めてもらいたい。

(教委) 各学校の(校長の)考えもあるが、今のところ考えていない。

(知教労) 行事の見直しを進めるべきだ。職場体験学習は取りやめる方向で考えられないか。

(教委) キャリア教育は半田市の教育重点目標で意義はある。負担軽減策として受け入れ事業所の調整もしている。

(知教労) 働いている人の話を聞くだけでもいいと思う。職場体験と言っても、製造業はなく販売系ばかりで「売り子」体験でしかない。そもそも職場体験学習に関わる教員の負担を正確に把握しているのか。

(教委) 正確には把握していない。

(知教労) 意義は分かるが、あれもこれもと、どこかで切らないと授業の準備をする時間も無くなる。

(教委) 意義のないものはないことは確かだ。どこを減らせるか考えていかないといけない。

4 部活動の適切な運営について

(知教労) 朝部活の廃止についてはどうか。

(教委) 超過時間を45時間以内にすることについて、部活だけでは考えられないが、全体の中で朝部活の在り方も考えたい。今年度はコロナの影響で朝部なしで進めていく。令和3年度以降はどこを削減するかで候補にはなるだろう。

(知教労) 部活動を指導するかどうかを希望制にしてほしい。

(教委) 部活動は教員が子どもと関わる一つの機会だ。複数顧問制などで配慮したい。

(知教労) 実際に諸事情で活動に関われない人もいる。名前だけ入れるのはどうなのか。部活動の数を減らして、やれる人でやっていくようにしてはどうか。(教委) 検討課題だ。

(知教労) 文科省から部活動を切り離すという方針も出た。

(教委) 文科省が出したものは、すでに半田市でもやってきたことだ、地域の活動と言いつつも結局は教員がやっていた。土日は地域部活に、平日は教員がというが、大会や練習試合はどうなるのか。本当に解決するなら大会を止めるかということになるが、そう簡単ではない。

5 ゆきとどいた教育を実現するため、教育諸条件の充実を求めていってください。

(知教労) 人的な支援の厚さには感謝している。給食費などの集金事務に充てる人員の新設をしてほしい。

(教委) 人的には手厚くしている。生活支援員を小学校で39人中学校に15人、特別支援学級に16人、心の相談員を小学校に2人・中学校に5人ずつ配置している。これからも継続したい。

(知教労) 給食事務を教員ではなく教育委員会の方でできるようにならないか。

(教委) 他市町の様子も聞きながら検討している。給食センターとも相談しながら、学校から引き上げられないか業者にもあたりしている。

(知教労) 特別教室(音楽室・理科室・美術室など)へのエアコン導入を勧めしてほしい。

(教委) いろいろと考えている。令和4年度から乙川中の工事が始まるが、そこで各教室で使っていたものを再利用できないかも考えている。(令和4年度終わりに取り壊して、5年度くらいから設置できないか)

(知教労) 校舎の建て替えの予定は。

(教委) 乙川中は予定通り、令和5年1月に新校舎になる。その次は亀崎小、乙川東小という順序で。

(知教労) 生徒のトイレと職員のトイレの洋式化に加え、シャワートイレの設置を進めてもらいたい。

(教委) 幼稚園で大人用の洋式トイレが一つもない園がなくなった。シャワートイレまでは到達していない。

6 その他

(知教労) 少人数学級の世論が高まり、地方議会などでも決議が上がっている。

(教委) 30人学級になると半田市で教員を40人近く確保することが必要だ。人員の確保が大変だ。

長時間の話し合いありがとうございました。(知教労側参加者一同)